

介護職員初任者研修（通信） シラバス

NPO法人 コミュニティサポートいずも

介護職員初任者研修計画(通信課程用)

研修事業の名称 介護職員初任者研修

1 職務の理解(6 時間)

目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
指導の視点	○研修過程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ○実際に職場見学を組み入れるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。		
評価ポイント	評価なし		
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)		
備品	ホワイトボード DVD		
項目名	時間	通学	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3	3	<講義> ○介護という職業について、介護保険制度下の居宅サービスおよび施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービス(福祉・医療サービス等)について概説する。 ・介護の概念 ・介護保険サービス(施設・居宅・地域密着型サービス) ・介護保険外サービス <演習> ○講義を踏まえ、施設の紹介映像(DVD教材)を利用して介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	<講義> ○居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。チームアプローチ・他職種との連携、地域の社会資源との連携について概説する。 <実習> ○施設の見学を行う(介護保険:デイサービス 障がい福祉:放課後 デイサービス等)
合計	6	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援(9 時間)

目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
指導の視点	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。			
評価ポイント	①介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ②虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	5	0.5	4.5	<講義> ○人権と尊厳の保持 ○ICF ○QOL ○ノーマライゼーション ○虐待防止、身体拘束禁止 ○個人の権利を守る制度の概要
② 自立に向けた介護	4	1	3	<講義> ○自立支援 ・利用者の残存機能を活用しながら自立支援や重度化の防止、遅延に資するケアを促す ○介護予防 ・一次予防事業である高齢者が参加しやすい教室開催への取り組み等の理解 ・二次予防事業の6つの視点(運動器の機能の向上・栄養改善・口腔機能の向上・閉じこもり予防・認知機能低下予防・うつ予防)である
合計	9	1.5	7.5	

3 介護の基本(6 時間)

目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。			
指導の視点	○具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。			
評価ポイント	①介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ②介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ③介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ④生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ⑤介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード 手洗い石鹸 紙コップ ペーパータオル エプロン 手袋			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	0.75	0.75	<講義> ○各介護現場での介護職の役割を理解する。地域包括支援センター創設の背景からチームアプローチの意味を理解する。 ○家族による介護と専門職による介護の相違点と、介護の専門性を理解する。 ○福祉、保健、医療分野の各専門職の業務内容や範囲を周知し、多職種連携の重要性について理解する。 <演習> ○多職種間での情報共有がどんなメリットをもたらすか事例を通し討議する。
② 介護職の職業倫理	1.5	0.75	0.75	<講義> ○職業倫理 ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理(介護福祉士倫理と介護福祉士制度等) ・介護職としての社会的責任・プライバシーの保護・尊重 ○検討事例を示し自立支援、介護予防という考え方に基づいたケアについてグループワークを行う。

③ 介護における安全の確保と リスクマネジメント	1.5	0.75	0.75	<講義> ○介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応する技術 ○事故防止、安全対策 ・リスクマネジメント ・情報の共有 ・分析手法と視点・事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等) ○感染対策 ・感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断) <演習> ○ヒヤリハットレポートの書き方
④ 介護職の安全	1.5	0.75	0.75	<講義> ○介護職の心身の健康管理 ・ストレスサー ・腰痛予防等 ・労働者の心の健康の保持増進の指針 ・メンタルヘルスケア ・こころの健康づくり計画 <演習> ・講師の実演に基づき、手洗い、うがい、手袋及びガウンテクニック、の方法を全員でシュミレーションする。
合計	6	3	3	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9 時間)

目標	○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。			
指導の視点	○介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。			
評価ポイント	①生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ②高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的内容について列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	制度についての用語テスト ホワイトボード			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
① 介護保険制度	3	0.75	2.25	<講義> ○介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 ○仕組みの基本的理解 ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 ○制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定 <演習> ○制度に関わる基本的な用語について、練習問題を解いて知識の確認をする。
② 障害福祉制度及びその他の制度	3	0.75	2.25	<講義> ○障害福祉制度の理念 ・障害の概念 ・ICF(国際生活機能分類) ○障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ○個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法 ・成年後見人制度 ・日常生活自立支援事業
③ 医療との連携とリハビリテーション	3	0	3	<講義> ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーションの理念
合計	9	1.5	7.5	

5 介護におけるコミュニケーション技術(6 時間)

目標	○高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを理解する。 ○上記の違いを認識してコミュニケーションを取る事が求められていることを認識する。 ○初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。			
指導の視点	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。 ○言語的・非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性を理解する			
評価ポイント	①共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列举できる。 ②家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列举できる。 ③言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーション上の留意点を列举できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード 介護記録用紙			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義> ○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○コミュニケーション技法 ○利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 (視力、聴力の障害、失語症、構音障害、認知症) <演習> ○コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義> ○報告 ・報告 連絡 相談の留意点 ○コミュニケーションを促す環境 ・会議 情報共有の場 ・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼) ・ケアカンファレンスの重要性 <演習> ○実際に介護記録を記入する
合計	6	3	3	

6 老化の理解(6 時間)

目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
指導の視点	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。			
評価ポイント	①加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ②高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード 介護記録用紙			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<講義> ○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防御反応(反射)の変化 ・喪失体験 ○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋・骨・関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義> ○高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折 ・筋力の低下と動き ・姿勢の変化 ・関節痛 ○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・生活習慣病 ・がん(悪性腫瘍) ・循環器の病気 ・呼吸器の病気 ・消化器の病気 ・腎・内分泌系の病気 ・脳神経系の病気 ・筋・骨格系の病気 ・泌尿器の病気 ・皮膚の病気 ・感染症 ・その他の病気 ・特定疾病
合計	6	3	3	

7 認知症の理解(6 時間)

目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
指導の視点	○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。			
評価ポイント	①認知症ケアの理念や、利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ②認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方及び介護の原則について列挙できる。 ③家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード 介護記録用紙			
①認知症を取り巻く状況	1.5	0.75	0.75	<講義> ○認知症のケアの理念、視点 ・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	0.75	0.75	<講義> ○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理・認知症の定義 ・もの忘れとの違い・せん妄の症状 ・健康管理(脱水、便秘、低栄養、低運動、口腔ケア) ・治療・薬物療法・認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	0.75	0.75	<講義> ○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状(BPSD) ・不適切なケア ・生活環境で改善 ○認知症利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手 の世界にあわせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであるとする ・身体を通じたコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア <演習> ○事例を基に認知症への対応方法を班で検討する
④家族への支援	1.5	0.75	0.75	<講義> ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計	6	3	3	

8 障害の理解(3 時間)

目標	○障害の概念とICF, 障害者福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する。			
指導の視点	○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら, それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。			
評価ポイント	①障害の概念とICFについて概説できる。 ②各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ③障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第1分冊)			
備品	ホワイトボード			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1	1	0	<講義> ○障害の概念とICF ○障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識	1	1	0	<講義> ○身体障害 ・視覚障害 ・聴覚、平衡障害 ・音声、言語、咀嚼障害 ・肢体不自由 ・内部障害 ○知的障害 ・知的障害 ○精神障害(高次脳機能障害、発達障害を含む) ・統合失調症、感情障害、依存症などの精神疾患 ・高次脳機能障害 ・広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害の発達障害 ○その他の心身の機能障害
③家族の心理、かかり支援の理解	1	1	0	<講義> ○家族への支援 ・障害の理解 ・障害の受容支援 ・介護負担の軽減 <演習> ○事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う
合計	3	3	0	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
指導の視点	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ○人体の構造を理解し、演習にてボディメカニクスを体験することにより理解を深める ○支援を行うにおいて生活歴を知ることの重要性をグループワークにて理解する。 ○家庭内で多い事故についてグループワークにて防止方法等を検討する。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。 ・実技演習にて着脱介助の理解を深める。 ・実技演習にて移乗・移動介助の理解を深める。 ・実技演習にて食事介助の理解を深める。 ・実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める。 ・実技演習にて排泄の方法等の理解を深める。 ・実技演習にてベッドメイキングや体位変換の理解を深める。			
評価ポイント	①主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活 ②要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説できる。 ③生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ④人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。 ⑤人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。 ⑥家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ⑦利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ⑧装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ⑨移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説できる。 ⑩食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙できる。 ⑪入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙できる。 ⑫排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。 ⑬睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙できる。 ⑭睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑮ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や多職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第2分冊)			

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	ホワイトボード				
【基本知識の学習】 ①介護の基本的な考え方		5	3	2	<講義> ○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護 <演習> ○グループに分かれて、生活障害という視点から、ICFに基づいて、心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる
備品	ホワイトボード				
【基本知識の学習】 ②介護に関する こころのしくみの基礎的理解		3	3	0	<講義> ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響 <演習> ○個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議する
備品	ホワイトボード DVD 体温計 血圧計 パルスオキシメーター				
【基本知識の学習】 ③介護に関する からだのしくみの基礎的理解		5	3	2	<講義> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <演習> ○バイタルサインチェックの測り方を演習する ・体温・脈拍・呼吸・血圧
項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	ホワイトボード				
【生活支援技術の講義・演習】 ④生活と家事		5	3	2	<講義> ○家事と生活理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活歴・自立支援 ・予防的な対応・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活習慣・価値観 <演習> ○調理援助に関して、模擬事例を用い、グループ演習を通して調理援助の計画を作成し、報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し、理解を図る。

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	福祉用具				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑤快適な住環境整備と介護		3	3	0	<講義> ○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故・バリアフリー ・住宅改修・福祉用具貸与 <演習> ○実際に福祉用具を使用し、体感してみる
備品	衣服(上衣・前開き・被り・下衣)ベッド シーツー式 布団類一式				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑥整容に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	6	0	<講義> ○整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく・整容行動・洗面の意義・効果 <演習><施設実習> ○DVDを活用し、整容支援技術(洗顔、目、鼻腔、耳、爪の清潔法、髭剃り)の理解を深める ○片麻痺、ベッド上で全介助等の状態を想定し実際に着衣着脱の援助を行う ○洗面、整髪、爪の手入れ
備品	ベッド 車いす 歩行器 杖 スライディングシート				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	6	0	<講義> ○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動 ・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動 ・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動き、残存能力の活用、自立支援 ・重心、重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理・移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッドと車いす間の移乗、全面介助での車いす、洋式トイレ間の移乗) ・移動介助(車いす・歩行器・つえ等) ・褥瘡予防
備品	車いす ベッド スライディングボード 杖 歩行器 アイマスク				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	6	0	<演習><施設実習> ○安楽な体位の工夫 ○体位変換、移動介助(臥位、起居動作、座位、立位) ○車いす⇄ベッド、ベッド⇄ポータブルトイレ、車いす⇄洋式トイレの移乗動作 ○ボディメカニクスの活用と体位変換 ○肢体不自由者、視覚障害者の歩行介助 ○転倒予防体操を体験する

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	とろみ 食器一式 食事用エプロン タオル コップ ガーグルベース スポンジブラシ 歯ブラシ バケツ 湯温計 ハンドタオル ゴム手袋 車いす				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6	5	1	<講義> ○食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢 ・咀嚼、嚥下のメカニズム・空腹感・満腹感 ・好み・食事の環境整備(時間・場所等) ・食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防 <演習><施設実習> ○グループ単位で実施 ・受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介助の練習を行う ・様々な介護食材、トロミ材を用意し、制作、試食する ・食事介助の基本方法を講師が模範演技し、特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 ・嚥下のメカニズムを学ぶ ○口腔ケアの方法 ○食事介助(姿勢・摂食体験)
備品	ホワイトボード たらい 湯温計 お湯を入れる容器 バスタオル 椅子 シャワーボトル				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6	6	0	<講義> ○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認 ・全身清拭・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法・陰部洗浄 ・足浴、手浴、洗髪 <演習><施設実習> ・入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、清拭時の体の支え方を講師が模範演技をし、実践練習を行う ・目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	ホワイトボード 紙パンツ パット ベッド ベッド柵 シーツ一式 布団類一式				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<講義> ○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・排泄とは・身体面(生理面)での意味 ・心理面での意味・社会的な意味 ・プライド、羞恥心・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助の利用者のトイレ介助の具体的な方法 ・便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ) <演習><施設実習> ○グループ単位で実施 ・講義前に紙パンツを全員に配布し、排泄体験を行う ・排泄環境整備の方法・排泄用具の紹介 ・おむつやパットの吸収ポリマーの能力、交換方法 ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ ・ポータブルトイレの構造、使用方法を学ぶ ・ベッド上でおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ ・男性と女性の違いによる排泄介助のコツを学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ	
備品	ベッド ベッド柵 シーツ一式 布団類一式 クッション				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	5	1	<講義> ○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備(温度や湿度、光、音、安眠ための寝室) ・安楽な姿勢・褥瘡予防 <演習><施設実習> ○グループ単位で実施。快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する ・ベッドの構造、機能、操作方を学ぶ。安楽な姿勢 ・褥瘡予防を実際に行う ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ ・ベッドメイキング方法を学ぶ	

9 ところとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

項目名		時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
備品	ホワイトボード DVD				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護		6	2	4	<講義> ○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死、癌死) ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 <演習> ○講師が示す事例・体験及び映画を鑑賞して、看取りの意義についてグループで討議する
備品	ホワイトボード 個別支援計画書				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑬介護過程の基礎的理解		6	6	0	<講義> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ <演習> ○具体的な事例を提示して介護計画(個別支援計画)を立案、作成する
備品	ホワイトボード				
【生活支援技術の講義・演習】 ⑭総合生活支援技術演習		6	6	0	<講義> ○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 <演習> ○1事例2.5時間程度のサイクルで実施する ○事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う 1)要支援者への支援(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) 2)要介護者・介護家庭への援助(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由)
合計		81	69	12	

10 振り返り(4時間)

目標	○研修全体を振り返り、学んだことについて再確認を行い、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
指導の視点	○在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ○研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ○最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期対応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ○修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ○介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材、現場職員の体験談等)			
評価ポイント	評価なし			
テキスト	介護職員初任者研修テキスト(第2分冊)			
備品	ホワイトボード 模造紙			
項目名	時間	通学	通信	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3	3	0	<講義> ○研修を通して学んだことや理解したことを再確認する ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) <演習> ○グループディスカッションを通して、今後のキャリア形成について見通しを持つ
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1	0	<講義> ○事業所における事例を学ぶ ・継続的に学ぶこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT、OJT)を紹介 <演習> ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例紹介
合計	4	4	0	
全カリキュラム合計時間	130	94	36	